



隈府小だより

学校教育目標 「自ら考え なまこと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No31
文責 芹川博文
12月19日(金)

豪華絢爛 もはや「アート作品」 ～PTAの皆様による門松づくりから感じたこと～



2週連続でPTA関係の記事となります。それだけ強烈なインパクトあるひと時でした。隈府小恒例の門松を、今年もPTA執行部と学校支援委員会15名の皆様で作っていただきました。職員玄関のひさしに届くすれすれの巨大門松。しかも完成した「門松」は、もはや「アート作品」。「縄は7, 5, 3だもんな(一番下から7回巻き、5回巻き、3回巻き)」「竹は上向き。節ば見ると分かる。」など、正式なしきたりに則りながらも、最後の装飾では感性と遊び心あふれる自由な発想で、松竹梅だけでなく、「校長先生、あれもよからか」と、校内の紅葉の枝やソテツの葉も次々に差し込まれ、躍動感あふれる門松が、約1時間半で完成しました。

私が目を見張ったのは、それぞれの専門性や経験を生かした「匠の技」です。道具も作業さばきもプロ職人の手際の良さが光りました。同時に、門松を作りながら交わされる言葉の明るさとオリジナルの創造性。冷たい雨も降る悪天候の中でも笑いと笑顔が絶えない時間でした。

師走の平日午後を割いて、隈府小のために集まってくれた皆様。その姿から多くのことを学ばせていただきました。門松を作る皆さん姿は、「本物」、「没頭」そして「明日がたのしみな学校」を目指す本校の目標モデルとして、そのまま重なるものでした。

次の朝、登校した子どもたちが「すげ～」と、驚いて見上げていました。

冬休みの宿題プラン ～一気に？ それとも計画的に？～

「冬休みの宿題は一気にやるか、計画的に少しずつやるか」 今週の「わいわいタイム」のお題に興味をかき立てられました。6年生のクラスでは「一気にやる」が圧倒的に多く手を挙げていました。しかし、内容や理由は様々。「最初のやる気のあるうちに一気にやる」と言う人もいれば、「最後の3日で」と言う人も。一方、「計画的にやる」と言う人も、「一度に無理せず計画した方がスムーズにいく」、「計画的にといっても最初の数日で終わる」など、それぞれでした。



要は自分で考え、実行することが大切です。計画どおりいかないことも含めて、経験となり学びとなることでしょう。「自分で考える」ことの中に、「どうやったら終わるか」だけでなく、「何のためにやるか」を考えると効果が高まります。

＜日記のおススメ＞ 新年を迎えるにあたり、「日記をつけること」をお勧めさせてください。10年日記をつけて、約20年になります。10年日記は1ページに同じ日付が10年分並んでおり、「去年は何をした」「10年前は何をした」が一目瞭然です。最初、真っ新の10年日記を最初に書く時は緊張します。10年後は予想がつかないからです。しかし、それが毎年埋められていきます。10年前、想像もしなかった「未来」が「過去」になる不思議さ。未知のパズルのピースが埋められていく感じがします。まずは、本屋さんで手に取ってみませんか。